

外国語学習の中での地図活用

奈良教育大学教授 岩本廣美

小学校の新学習指導要領で示された外国語学習を、平成23年度完全実施前の移行期に実践している学校は数多くあるでしょう。その際、現行の『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』（以下、地図帳）を活用すれば、外国語学習の効果がいっそう高まります。地図帳には、外国語学習の素材となる外国地理に関する内容が豊富に盛り込まれているからです。

ここでは、地図帳を活用した外国語学習の展開事例を三つ具体的に紹介します。

1. 世界のさまざまなことばをさがそう

全国の小学校が採用する外国語はほとんど英語になりそうです。しかし、英語は世界に数多くあることばのひとつですから、世界にはさまざまなことばがあることを子どもに理解させることが大切です。この点で効果的に活用できるのが、地図帳の裏見返しp.74~76「世界の国々」の地図（図1）です。

「世界の国々」の地図では、世界で使われていることばを13^注 取り上げ、使用文字のほか、日本語の「こんにちは」に当たる表現をカタカナ表記で示しています。外国語学習としてこのページを取り上げる場合、それぞれのことばで使用している独特な文字に注目させるとともに、子どもが「こんにちは」に



図1 『楽しく学ぶ小学生の地図帳』 p.74~75

当たる表現を発声する活動を取り入れることが大切です。

もし、子どもの身近なところで外国人と接触できる場合や学校で国際交流集会のような行事を開催する場合には、「こんにちは」に当たる表現を外国人に実際に発声してもらい、子どもが復唱して、耳と口を通した学習活動になれば、外国語を使ったコミュニケーションの第一歩となります。外国語を話す人との触れ合いは背後にある国への関心へと広がっていきます。

2. アメリカ合衆国の州名の仲間さがしをしよう

地図帳p.55~56「アメリカ合衆国とそのまわり」の地図（図2）には英語学習に使える学習素材がふんだんに盛り込まれています。たとえば、p.55左側に活動のヒントが示されているように、州の名称に注目することによ

って、基本的な英単語をいくつか学習することができます。

頭に「ノース」、「サウス」、「ニュー」がつく州名をさがそう、という課題の投げかけが効果的です。これによって、子どもはアメリカ合衆国の州名をくまなく見ることになり、その結果、「ノース」と「サウス」の組み合わせでは、「ノースカロライナ」と「サウスカロライナ」および「ノースダコタ」と「サウスダコタ」の2組の仲間を発見することになります。子どもがそれぞれの位置関係に気づけば、「ノース」＝北、「サウス」＝南という意味を無理なく学習することにもなります。

「アメリカ合衆国とそのまわり」の地図では、州名に英語のつづりを付していますので、このページでは、英単語の表記を学習することもできます。

3. アメリカ合衆国からの輸入品をさがそう

「アメリカ合衆国とそのまわり」の地図を活用し、英語の簡単な表現にアメリカ合衆国の州名を交えて、ゲーム感覚で楽しく学習で



図2 『楽しく学ぶ小学生の地図帳』 p.55~56

きる活動を紹介します。

I want to go to ○○○.

という表現を用いる活動です。ある子ども（または指導する先生）が○○○の箇所にアメリカ合衆国の州名を入れてクラス全体に聞こえるように発声します。ただし、ここで取り上げる州は、日本が輸入している品を生産している州とします。クラスの他の子どもは、発声された州名を地図上でさがして見つけ、さらに輸入品を確認した段階で手を挙げます。先に州名を発声した子どもは、手を挙げた子どものうちのひとりを指名し、品名を答えてもらいます（例：アイオワ州＝だいちとうもろこし）。正解であれば、その子どもは、別の州名を選択して、I want to go to ○○○. と発声し、以下は繰り返します。

「アメリカ合衆国とそのまわり」の地図で、日本が輸入している品を表示している州は11州で、全体の一部です。しかし、この地図で取り上げている要素として、アメリカ合衆国からの輸入品のほかに「物語のぶたいとなったところ」や「特色ある建物・場所」などがありますので、このようなクイズ形式を活用してほかの州も取り上げることができます。

* * *

地図帳を活用した外国語学習の展開方法はほかにも多々あることでしょう。いろいろとチャレンジしてみたいでしょうか。

注)本誌2009年2学期号掲載の「国語の学習の中での地図活用」では、これらのうちローマ字を使用していることばに注目しています。